

令和4年度第2回「しがwebアンケートプラス調査」

(県内向け調査)の結果について

1 調査の目的

県政における喫緊の課題や重要事項について、インターネットを活用し適時迅速に県民の意識や意向を調査し、速やかに県の方針や県政運営に反映させるための基礎資料とする。

2 調査の概要

- (1) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の個人
- (2) 標本数 500 人
- (3) 調査方法 インターネットを利用し、パソコン、スマホ等により回答するWEB調査
- (4) 調査期間 令和4年7月22日(金)～ 7月28日(木)
- (5) 調査会社 株式会社クロス・マーケティング

3 調査項目

マザーレイクゴールズ(MLGs)に関する意識調査

4 主な調査結果

Q1 あなたは、「マザーレイクゴールズ(MLGs)」を知っていますか。(答えは1つ)

※「マザーレイクゴールズ(MLGs)」とは、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、琵琶湖を切り口とした13のゴールを設定するもので、琵琶湖・滋賀から発信する「琵琶湖版のSDGs」(詳しくは、<https://mlgs.shiga.jp/> をご覧ください。)です。

よく知っている	2.6%
だいたい知っている	5.2%
一部を知っている	7.6%
名前だけ知っている	17.6%
全く知らない	67.0%

・「全く知らない」と回答した人は67.0%と最も多く、次いで「名前だけ知っている」の17.6%となっている。特に20歳代では、「全く知らない」と回答した人は77%を超えており、知名度が相当程度低いことがうかがえる。

Q2 あなたは、過去1年間に滋賀県内で環境保全活動や環境学習に何回参加しましたか。(答えは1つ)

※「環境保全活動」とは、ゴミ拾い、ヨシ刈り、河川の草刈りなどを指します。

※「環境学習」とは、環境に関するセミナー、学習会、観察会などを指します。

6回以上	1.4%
4～5回	0.8%
2～3回	7.0%
1回	8.2%

全く参加しなかった 82.6%

・「全く参加しなかった」と回答した人は82.6%と最も多く、次いで「1回」の8.2%と、環境保全活動等への参加が極めて低調であることがうかがえる。

Q3 Q2で、「1回」から「6回以上」(年1回以上参加した)と回答された方にお尋ねします。具体的にどのような活動に参加されましたか。(答えはいくつでも)

1位:清掃活動	66.7%
2位:河川の草刈り	32.2%
3位:水環境保全に関する学習会	10.3%
4位:外来魚釣り大会	9.2%
5位:水質調査	6.9%
ヨシ刈り	6.9%
7位:生きもの観察会	5.7%
地球温暖化防止や防災に関する学習会	5.7%
その他	5.7%
10位:植樹や間伐活動	4.6%
生態系保全に関する学習会	4.6%
12位:魚の放流	3.4%
13位:湖魚料理の試食体験	2.3%

・「清掃活動」と回答した人は、男性が60.4%に対し、女性では74.4%となっており、女性の参加が多いのに対し、「河川の草刈り」については、堤防斜面や川の中など作業しにくい場所があるためか、男性が41.7%に対し、女性の参加は低く、20.5%となっている。

Q4 あなたは、過去1年間に、地域やご自身などで、環境に関する活動や取組をしましたか。(答えはいくつでも)

1位:環境に関する活動や取組をしなかった	73.6%
2位:市民団体や地域組織で、これまでの取組を継続した	7.8%
3位:一人で、これまでの取組を継続した	6.2%
4位:身近な人(家族や友人、同僚など)と一緒に、これまでの取組を継続した	5.4%
5位:これまでに参加したことがあるイベントに再度参加した	3.8%
6位:市民団体や地域組織で、新しい取組を始めた	3.4%
7位:身近な人(家族や友人、同僚など)と一緒に、新しい取組を始めた	2.8%
8位:一人で、新しい取組を始めた	2.0%
初めてイベントなどに参加した	2.0%

・「環境に関する活動や取組をしなかった」と回答した人が最も多く、73.6%となっており、Q2の回答結果と同様、環境に関する活動等が極めて低調であることがうかがえる。

・6位以下の、新しい取組を始めた、あるいは初めて参加したといった回答は、どれも4%以下であり、新たな取組への意欲もあまりみられないことがうかがえる。

Q5 あなたは、日々の暮らしの中で、家庭排水をできるだけ出さないように、またできるだけ汚さないように気をつけていますか。(答えは1つ)

※「家庭排水」とは、台所・風呂場・洗面台から出る排水、洗車・園芸に伴う排水などを指し、便所からの排水や雨水は除きます。

いつも気をつけている	14.4%
だいたい気をつけている	31.2%
ときどき気をつけている	23.4%
ほとんど気をつけていない	15.2%
全く気をつけていない	15.8%

・「だいたい気をつけている」と回答した人が31.2%と最も多く、次いで「ときどき気をつけている」の23.4%、「全く気をつけていない」の15.8%となっている。

・一方、「全く気をつけていない」と回答した人の15.8%と、「ほとんど気をつけていない」と回答した人の15.2%を合わせると、家庭排水についてほとんど関心のない人は31.0%にのぼる。

・「全く気をつけていない」と回答した人のうち、女性が12.4%なのに対し、男性は19.2%と7ポイント近くの開きがある。

Q6 あなたは、日々の暮らしの中で、どれくらいの頻度で、琵琶湖でとれた魚や貝を使った料理(湖魚料理)を作って食べていますか。(答えは1つ)

週5回以上	0.2%
週3～4回以上	0.8%
週2回	1.6%
週1回	2.0%
月に2～3回	7.2%
月に1回	7.4%
それ以下の頻度	30.6%
湖魚料理を作ったことはない	50.2%

・「湖魚料理を作ったことはない」と回答した人が50.2%と半数にのぼり、次いで「それ以下の頻度」(月に1回未満)の30.6%、「月に1回」の7.4%などとなっている。

Q7 あなたは、過去1年間に何回、琵琶湖や県内の河川で遊びましたか。(答えは1つ)

6回以上	3.8%
4～5回	1.6%
2～3回	7.6%
1回	8.0%
全く遊ばなかった	79.0%

・「全く遊ばなかった」と回答した人は79.0%と最も多く、次いで「1回」の8.0%、「2～3回」の7.6%などとなっており、水辺空間が遊びの対象となっていない現状がうかがえる。

Q8 あなたは、子どもの頃、どれくらいの頻度で琵琶湖や県内の河川で遊んでいましたか。(答えは1つ)

※ 「子どもの頃」とは、「幼稚園から小学校高学年まで」を指します。

週5回以上	1.8%
週3～4回以上	3.0%
週2回	3.2%
週1回	6.2%
月に2～3回	8.6%
月に1回	4.8%
それ以下の頻度	28.0%
全く遊ばなかった	44.4%

- ・「全く遊ばなかった」と回答した人は 44.4%と最も多く、次いで「それ以下の頻度」(月に1回以下)の28.0%などとなっており、幼少期に水辺で遊ばなかった人が多いことがうかがえる。
- ・Q7 とは設問が若干異なるものの、総じて、琵琶湖や河川が遊びの対象となっておらず、身近な存在でないことがうかがえる。

Q9 あなたは、自分の住む地域の洪水ハザードマップをどの程度知っていますか。(答えは1つ)

※ 「ハザードマップ」とは、自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図を指します。

よく知っている	6.0%
だいたい知っている	23.6%
一部を知っている	31.0%
名前だけ知っている	17.0%
全く知らない	22.4%

- ・「一部を知っている」と回答した人は31.0%と最も多くなっており、次いで「だいたい知っている」の23.6%などとなっている。
- ・「全く知らない」と回答した人は22.4%にとどまっており、洪水ハザードマップを何らかの形で知っている人が多いことがうかがえる。

Q10 あなたは、「生物多様性」について知っていますか。(答えは1つ)

※「生物多様性」とは、「生きもののにぎわい」ともいい、いろいろな場所にさまざまな特徴を持った生物が生息・生育している状態を指す言葉です。

よく知っている	6.4%
だいたい知っている	16.6%
一部を知っている	21.4%
名前だけ知っている	24.2%
全く知らない	31.4%

- ・「全く知らない」と回答した人は 31.4%と最も多く、次いで「名前だけ知っている」の24.2%、「一部を知っている」の21.4%などとなっている。

Q11 滋賀県では昨年度より MLGsの取組を開始し、今後県民の皆さんとともに本格的に進めていきたいと考えております。ついては、そのためには何が重要だと思われますか、あなたが思うことを自由にお書きください。(自由記述)

・500人のうち316人の方(63.2%)からご意見をいただき、その主なものは次のとおりである。

- ・周知、啓発、広報、PR など 76人
- ・意識の向上など 37人
- ・教育 9人

・他には、具体的な取組として、ゴミを減らす、汚水を川に流さない、琵琶湖を汚さないなどを挙げた人も多くみられた。

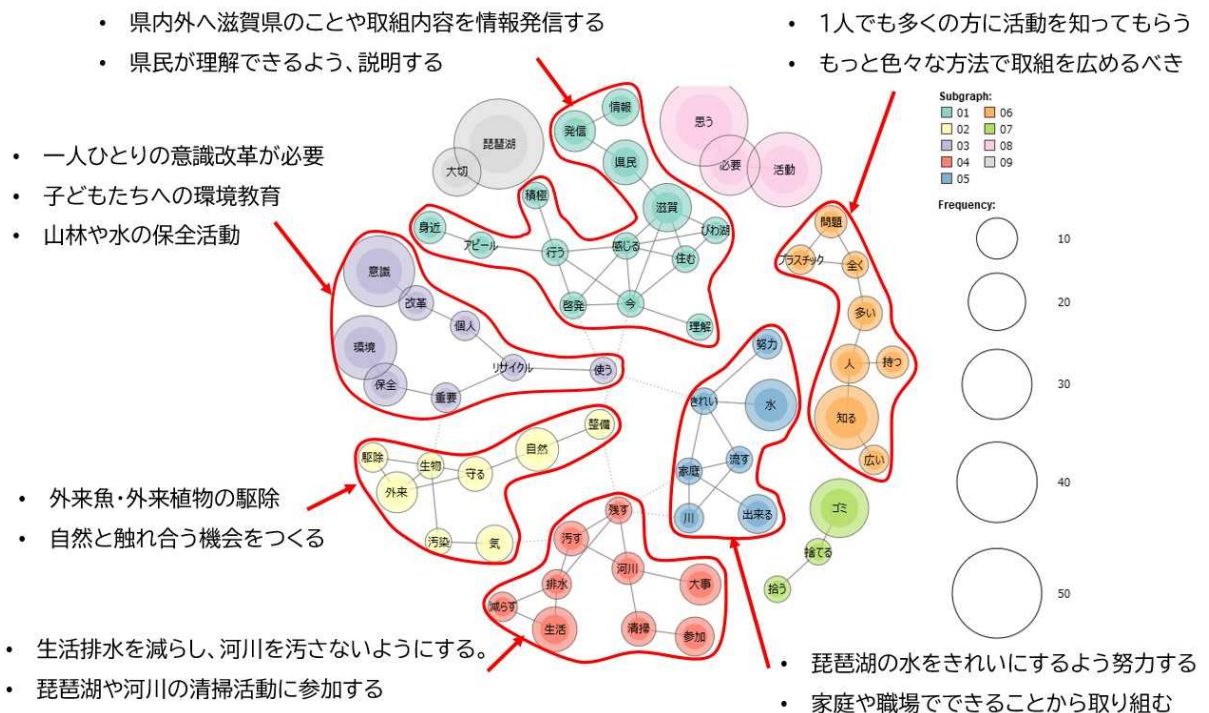
・また、

- 「気軽に参加できる取組、楽しみながら取り組めるように」
- 「日常生活とのつながりをわかりやすくイメージできるものの提示を」
- 「SDGsとの違いを明確に。別にする必要性は何か」
- 「もっとわかりやすく」
- 「その活動がないと将来どうなるのか」

など、「MLGs」の内容やイメージ、意義が今ひとつ浸透していないことから来ると考えられるご意見がみられるとともに、特段のご意見がなかった184人の方は、「特にない」、「わからない」といった記述をされており、そもそも「MLGs」の名称や概要を知らず、意見の書きようがないと考える人も相当数に上ることがうかがえる。

・自由記述でいただいたご意見の要約として共起ネットワークグラフを作成した。

共起ネットワークグラフは、一つの文章内で同時に出現(共起)するキーワード間に何らかの関連性があると仮定して集計し、出現頻度が上位のキーワード(点)と関連性(線)から成るネットワークグラフとして可視化したものである。



※語と語が結ばれている線は、共起性や関連性を表している。

※円の大きさは頻出キーワードの出現頻度を表している